

令和6年度新収蔵美術品について

令和6年度は、美術品の購入と受贈により77点の作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展などで活用してまいります。

1. 美術品の購入（4点）

No.	作家名	生没年	作品名
1	詩：瀧口 修造、 画：阿部 芳文	1903-1979 1913-1971	詩画集『妖精の距離』
2	土屋 仁応	1977-	麒麟
3	村上 早	1992-	きろく
4	〃	〃	はおる

上記、No.2～4は、富山県内在住の個人の方からのご寄附を活用し購入しました。寄附者のご意向を踏まえて、日本の若手・中堅作家（30代～50代）の作品を購入したものです。

2. 美術品の受贈（6件、73点）

No.	作家名	生没年	作品名	寄附者
1 ～ 30	金山 康喜、 （ほか1名）	1926-1959	聖ユーレリウスの器 （ほか 全30点）	綿貫 千重子氏
31	倉俣 史朗	1934-1991	スプリングの椅子	小川 安理氏
32 ～ 45	野見山 暁治	1920-2023	（無題） （ほか 全14点）	一般財団法人 野見山暁治財団
46 ～ 50	村上 炳人	1916-1997	天才児 （ほか 全5点）	村上 隆氏
51	安岡 信義	1888-1933	鏡を見遣る後ろ向きの 裸婦	安岡 朗夫氏
52 ～ 73	榎本 和子、 （ほか6名）	1930-	Yellow Function IV （ほか 全22点）	上甲 ミドリ氏

※各作品の詳細は、別紙のとおり

(別紙)

(1) 美術品の購入

No.	作家名	作品名	制作	材質等	サイズ(cm)	参考図版
1	詩：瀧口修造、 画：阿部芳文	詩画集『妖精の距離』	1937 年 10 月刊行	紙・イン ク（印刷）	30.2 × 24.3 (48.6) (全 12 葉)	
2	土屋 仁応	麒麟	2025	樟、彩 色・水晶	53.0 x 46.0 x 16.0	
3	村上 早	きろく	2019	紙・イン ク（銅版 画）	150.0 × 118.0	
4	村上 早	はおる	2024	紙・イン ク（銅版 画）	150.0 × 118.0	

1. 詩：瀧口修造、画：阿部芳文 詩画集『妖精の距離』

詩人で美術評論家の瀧口修造の初めての詩画集で、12編の瀧口の詩と画家・阿部芳文（展也）の画からなる印刷物。刊行後の1951年には、瀧口が深く関わったタケミヤ画廊での、阿部の個展に本詩画集が出品される。今回取得の『妖精の距離』は、100部限定で刊行されたうちの52番。

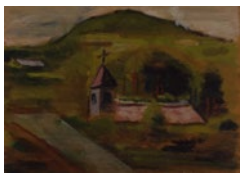
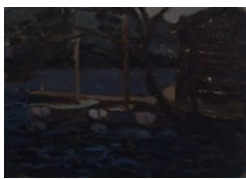
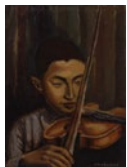
2. 土屋仁応《麒麟》

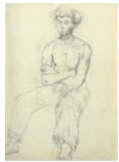
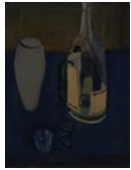
作家は1977年神奈川県出身。神話上の動物などをモチーフとした細密な木彫を得意とし、全国各地の美術館の現代美術展に出品する気鋭の作家。2018年に第9回円空大賞展にて円空賞を受賞。取得作品は、作家が富山県内を訪れ、井波等の木彫文化に触れて制作したもの。

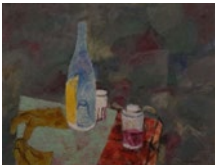
3. 4. 村上 早《きろく》、《はおる》

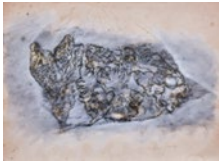
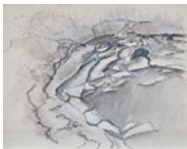
1992年群馬県生まれ。武蔵野美術大学在学中から公募展で受賞を重ね、早くから高い評価を受けてきた作家。取得作品の1点《きろく》は、山本鼎版画大賞を受賞し注目を集めた2019年上田市美術館での個展出品作で、もう1点は最新作《はおる》。国内でも数少ない大型プレス機を使用した大型の銅版画作品で、作者が「子供の絵」を目指していると語るように、太くのびやかな線で、大柄なイメージが表されている。

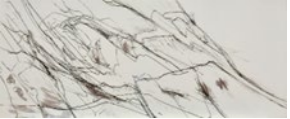
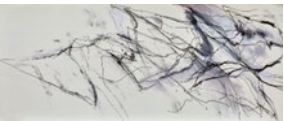
(2) 美術品の受贈

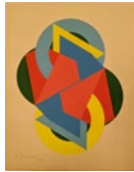
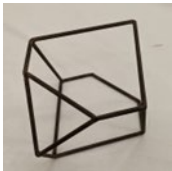
No.	作家名	作品名	制作	材質等	サイズ(cm)	参考図版
1	金山 康喜	佐渡島相川の教会	1943 年	板・油絵具	24.1×33.0	
2	金山 康喜	野尻湖風景	1943 年	板・油絵具	15.5×22.5	
3	金山 康喜	野尻湖風景	1943 年	板・油絵具	24.0×33.0	
4	金山 康喜	ヴァイオリンを弾く自画像	1943 年 ～ 45 年頃	板・油絵具	33.2×24.0	
5	金山 康喜	イーゼルの前の自画像	1945 年 ～ 47 年	キャンバス・油絵具	65.3×53.2	
6	金山 康喜	山間の風景	1940 年 代後半	紙、鉛筆、水彩	20.8×26.6	
7	金山 康喜	裸婦（横向き）	1948 年 ～ 50 年頃	紙・鉛筆	26.6×20.8	
8	金山 康喜	裸婦（仰向け）	1948 年 ～ 50 年頃	紙・鉛筆	26.6×20.8	
9	金山 康喜	裸婦（正面）	1948 年 ～ 50 年頃	紙・鉛筆	35.8×26.6	

10	金山 康喜	裸婦(横臥)	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・コン テ	26.6×35.8	
11	金山 康喜	座ってポーズをとる女	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・コン テ	26.6×35.8	
12	金山 康喜	腕組みをして座る男	1948 年 ～ 50 年 頃	紙・コン テ	38.5×27	
13	金山 康喜	背広を着た自画像	1948 年 ～ 50 年 頃	キャンバ ス・油 絵 具	72.5×60.5	
14	金山 康喜	聖ユーレリウスの器	1949 年	キャンバ ス・油 絵 具	65.1×80.0	
15	金山 康喜	聖ユーレリウスの器 (1)	1949 年	キャンバ ス・油 絵 具	73.0×91.0	
16	金山 康喜	聖ヘレニウスの時計	1950 年	キャンバ ス・油 絵 具	80.0 × 116.3	
17	金山 康喜	静物 [眼鏡のある静物]	1949 年 頃	キャンバ ス・油 絵 具	61.0×45.1	
18	金山 康喜	パリの風景	1951 年	紙・イン ク、パス テル、水 彩	35.7×25.4	
19	金山 康喜	パリの風景	1951 年	紙・イン ク、パス テル、水 彩	25.4×35.6	

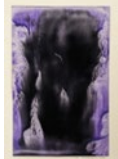
20	金山 康喜	女・A	1952 年	紙・インク	35.5×25.3	
21	金山 康喜	男の顔	1952 年	紙・インク	37.0×26.5	
22	金山 康喜	女の顔	1952 年	紙・インク、パステル	37.0×26.5	
23	金山 康喜	南仏コリウールの風景	1953 年	紙・色鉛筆	21.0×26.2	
24	金山 康喜	南仏コリウールの風景	1953 年	紙・色鉛筆	21.0×26.2	
25	金山 康喜	南仏コリウールの風景	1953 年	紙・色鉛筆	21.0×26.2	
26	金山 康喜	南仏コリウール 小船 BALVIR	1953 年	紙・インク、水彩	21.0×26.2	
27	金山 康喜	南仏コリウールの風景	1953 年	紙・色鉛筆	20.8×26.8	
28	金山 康喜	静物〔手袋のある静物〕	1953 年	キャンバス・油絵具	50.0×65.2	
29	金山 康喜	フレスコ画「死の舞踏」模写	制作年不詳	紙・インク、水彩	28.7×41.2	

30	古茂田 守介	金山康喜の像	1940 年代後半	紙・インク	26.6×20.5	
31	倉俣 史朗	スプリングの椅子	1968 年	スチールパイプ・布	40×39.5×39.5	
32	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	38.0×56.6	
33	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	37.4×56.4	
34	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	36.6×54.5	
35	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	39.0×57.0	
36	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	38.3×56.6	
37	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	41.2×56.2	
38	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.6×56.7	
39	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	56.5×76.3	
40	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.7 × 109.2	

41	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	109.3 × 44.5	
42	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	109.1 × 44.5	
43	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.8 × 109.5	
44	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.5 × 109.5	
45	野見山 暁治	(無題)	(不詳)	紙・水彩	44.5 × 109.3	
46	村上 炳人	天才児	1960 年代	木	44.5 × 30.1 × 15.0	
47	村上 炳人	父と子	1970 年代	木	86.0 × 21.5 × 19.5	
48	村上 炳人	いらつめ	1986 年	木	80.0 × 38.0 × 33.0 + 台座	
49	村上 炳人	デリーで会った少女	1989 年	木、着色	55.0 × 30.0 × 28.0	
50	村上 炳人	シェフ	1990 年代	ブロンズ	59.0 × 21.0 × 21.0	

51	安岡 信義	鏡を見遣る 後ろ向きの 裸婦	1913 年	キャンバ ス・油絵 具	80.5×60.5	
52	榎本 和子	Yellow Function IV	1981 年	紙・アク リル絵具	48.0×38.0	
53	榎本 和子	無心のゲー ムⅡ	1988 年	紙・アク リル絵具	65.0×50.0	
54	榎本 和子	黄金比の八 面体	1998 年	クリスタ ルガラス	10.7×9.7 ×9.7	
55	榎本 和子	稜辺の八面 体	1998 年	鉄	22×19.5× 19.5	
56	北川 民次	メキシコの 女	1956 年	紙・リト グラフ	38.5×29.0	
57	北川 民次	音楽家たち	1958 年	紙・リト グラフ	55.5×36.5	
58	小林 ドンゲ	香猫早春	1984 年	紙・エン グレーヴ ィング、 アクワチ ント、ソ フトグラ ンドエッ チング	32.3×23.5	
59	小林 ドンゲ	薔薇・時間 のために	1989 年	紙・エン グレーヴ ィング、 アクワチ ント	32.3×23.5	

60	駒井 哲郎	海底の祭	1951 年	紙、メゾ チント、 ソフトグ ランド・ エッチン グ	23.8×17.1	
61	駒井 哲郎	仏国風景	1954 年	紙・ビュ ラン	9.7×6.9	
62	駒井 哲郎	教会の横	1955 年	紙・ビュ ラン、ベ ルソー	15.8×11.7	
63	駒井 哲郎	樹木	1958 年	紙・エッ チング	23.3×21.0	
64	駒井 哲郎	[賀状]	1958 年	紙・エッ チング	12.1×17.8	
65	駒井 哲郎	[賀状]	1959 年	紙・エッ チング	12.0×18.0	
66	駒井 哲郎	Aout Les Morts(黒い 梟)	1960 年	紙・アク ワチント	25.2×41.5	
67	駒井 哲郎	残像	1968 年	紙・エッ チング	26.3×18.1	
68	駒井 哲郎	囚人	1969 年	紙・エッ チング	25.6×17.8	
69	駒井 哲郎	二樹	1970 年	紙・エッ チング	24.3×16.9	

70	瀧口 修造	[バート ドローイング]	1962 年	紙・バ ートド ローイング	27.0×19.0	
71	瀧口 修造	[デカルコ マニー]	1969 年	紙・デカ ルコマニ ー	17.5×11.5	
72	中川 幸夫	(無題)	(不詳)	紙・水彩	18.0×22.9 2 点組	
73	浜口 陽三	西瓜	1955 年	紙・カラ ーメゾチ ント	8.5×13.4	

1～30. 金山康喜 ほか

金山康喜は、旧制富山高校時代に美術に傾倒するも東京帝大経済学部に進み、パリ留学中に公募展に入選するなどして画家に転身したという異色の経歴を持つ。33 歳で急逝したが、その詩情溢れる静謐な作品は高く評価されている。初期の油彩やデッサンから、貴重な渡仏期の作品まで、画家の生涯をたどることができる作品群の一括寄贈を受けた。

30. 《金山康喜の像》の作者、小茂田守介（1918－1960、愛媛県生まれ）は、金山康喜と同時期に猪熊弦一郎に師事した画家である。

31. 倉俣史朗

倉俣史朗は、1960 年代から主に家具やインテリア、空間デザイン等の分野で斬新な作品を発表。フランス文化省芸術文化勲章を受章し、没後まもなく国際巡回展が組織されるなど国内外で評価。没後 30 年を経てなお国際的に関心を集める日本を代表するデザイナーの一人で、2024 年に当館でも個展を開催した。本作は最初期のデザインで重力からの解放というコンセプトがユーモラスに具現化された椅子である。

32～45. 野見山暁治

戦後日本を代表する洋画家の一人で、東京藝術大学で長く後進を指導した文化勲章受章者。瀧口修造や金山康喜との縁もあり、旧近代美術館時代から個展等を開催し、油彩画を所蔵している。作家が 2023 年に逝去したことに伴い、作品を管理する財団より、これまで所蔵がなかった水彩画について寄贈があったもの。

46～50. 村上炳人

高岡市生まれ。富山県立工芸学校（現・富山県立高岡工芸高等学校）工芸彫刻科を卒業し、京都を拠点として院展や二紀会で全国的に活躍した。平櫛田中ひらくしでんちゅうの系譜に位置する具象木彫家であるが抽象表現でも秀でた作品を残した。富山県を代表する彫刻家の一人であり、今回初めて収蔵するもの。

51. 安岡信義

東京美術学校図画師範科の第一期生。1920 年に富山県師範学校に着任。亡くなるまで県内で教鞭をとるとともに、創作活動を行った。富山県下の図画教師による「県美育協会」を結成し、美術教育に関する研究会や展覧会を開催した。富山県の洋画史の黎明期を語る上で欠かすことのできない画家のひとりであるが、早世のため作例は多くない。本作は、当時は珍しい裸婦を描いた作品であり、当時の時代背景とともに検証できる作品である。

52～73. 榎本和子 ほか、全 7 作家の 22 点

- ・ 榎本和子（1930－、兵庫県生まれ）／絵画 2 点、オブジェ 2 点
- ・ 北川民次（1894－1989、静岡県生まれ）／版画 2 点
- ・ 小林ドンゲ（1926－2022、東京都生まれ）／版画 2 点
- ・ 駒井哲郎（1920－1976、東京都生まれ）／版画 10 点
- ・ 瀧口修造（1903－1979、富山県生まれ）／水彩 2 点
- ・ 中川幸夫（1918－2012、香川県生まれ）／水彩 2 点組で 1 点
- ・ 浜口陽三（1909－2000、和歌山県生まれ）／版画 1 点

戦後、美術出版社で雑誌『美術手帖』等の編集に携わり、数多くの芸術家・美術評論家と交友があった上甲ミドリ氏（1925 年生まれ）から、所蔵品寄贈の申し出があったもの。瀧口修造の作品をはじめ、戦後日本美術を概観する際に当館コレクションを補完する作品。

以上